

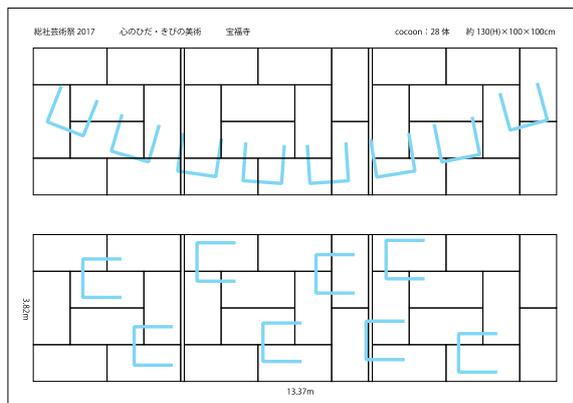
申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	島田 清徳
調査研究課題	空間におけるテキスタイル造形表現に関する研究					
調査研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表					
	分担者					
調査研究実績の概要	<p>日本の現代テキスタイル造形は、糸や布などの繊維素材を用いた染・織による工芸的な平面作品だけでなく、紙や金属・樹脂など様々な素材を取り込みながら、技法に限定されない自由で多様な表現へと発展してきた。1990年代以降、欧米の多くのテキスタイル造形家が平面への回帰傾向を見せたが、日本の現代テキスタイル造形は、平面から立体、そして更に空間へと表現の場を拡げ、日本独自の感受性と表現の多様性から国内外で高い評価を獲得してきた。</p> <p>申請者はこれまでに、テキスタイル造形と空間を融合させ、空間そのものを作品として提示し、体感型のインスタレーションと呼ばれる手法の研究に取り組んできた。今年度は、昨年度までに実施してきた国外における個性的特徴を有する歴史的建築空間への展示や体感型インスタレーションの成果をふまえたうえで、小劇場におけるコンテンポラリーダンスの舞台装置としての展開方法や、和の空間における体感型芸術表現の手法を研究し、空間とテキスタイル造形の新たな関係性による表現方法の可能性を探った。</p> <p>1. 小劇場におけるコンテンポラリーダンスの舞台装置としての展開 4～5月 演出家との打合せ 5～6月 作品制作 6月下旬 舞台設営、リハーサル 7月1、2、3日 公演「エタニティ」（愛知県芸術劇場・小ホール）</p> <p>現代においては、芸術が分野ごとに細分化され、互いに関わらなくなっている。縦割りになれば管理しやすいが、様々な専門性が垣根のない関係で影響しあいながら新しい表現を創り出すことで、今後の芸術表現は更なる発展を遂げる可能性があると考えます。時間芸術（ダンス、音楽）と空間芸術（テキスタイル造形）の融合により新たな総合芸術としての舞台作品を研究し、小劇場において実作品として提案した。</p>					
						
	作品設置の様子					

調査研究実績
の概要

2. 和の空間におけるインスタレーション作品としての展開

- 5月 設置空間の選定、打合せ
- 6～9月 構造、設置方法の実験
- 10月以降 作品展示計画
- 2～3月 仮組み、修正

岡山県立美術館との共催による体感型展覧会において発表したテキスタイル造形作品の展示成果をふまえ、今年度以降は、「触れる」から「内奥を体感する」へと発想を転換し、さらに和の空間と融合させることを意識しながら体感型作品の新たな可能性を探る。実験により問題点・修正点を洗い出し、総社芸術祭2017（平成29年4月29日～5月3日、於：宝福寺（総社市））への出品を予定している。



作品展示計画（案）